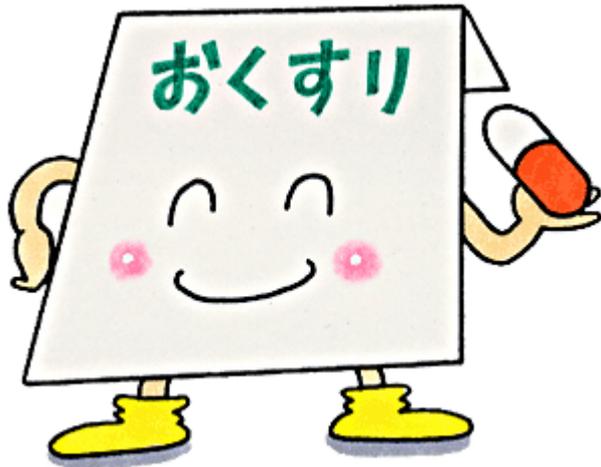


# 基本的な薬の飲み方②

【腎機能低下時に注意が必要な薬  
について】



# 本日の内容

1. CKDシールについて
2. 腎臓シックデイとは



# 腎機能低下時に注意したいこと

- ◆ 高度に腎機能が低下すると、



腎機能低下に合わせて減量が必要、  
または使用できなくなる薬があります。

- ◆ 薬自体が、さらに腎機能を悪化させるものもあります。



薬のことで、何か疑問があれば、主治医や  
薬剤師にお尋ねください。

# CKDシールをはってあなたの腎臓を守りましょう

## ➤ CKDシールって何？

あなたの腎臓の状態を知らせてくれるシールです。お薬手帳にCKDシールをはることで、あなたの腎臓のことを知らない病院や薬局に、あなたの腎臓の状態を知ってもらうことができます。



CKDシールをお薬手帳に  
はりましょう

# CKDシールをはってあなたの腎臓を守りましょう

## ➤ どんな患者さんに貼っているの？

腎臓の機能が落ちてきて、医師がお薬の量を調節したほうが良いと判断したらはっています。具体的には、血液検査で、eGFRが30未満を基準としています。

## ➤ CKDシールをはると何がいいの？

医師や薬剤師がCKDシールを確認することで、腎臓の機能に合わせてお薬の調節がしやすくなり、あなたの腎臓を守ることができます。

# CKDシールをはってあなたの腎臓を守りましょう

## ➤ どんな風に使うの？

医師の診察のときに、患者さんの了承を得てはらせていただきます。

病院を受診される時や、薬局に処方箋を出す時は、必ず、お薬手帳とCKDシールを見せるようにしましょう。

CKDシールのない方は、可能なら自分の腎機能がわかるデータを提示しましょう。



# 本日の内容

1. CKDシールについて
2. 腎臓シックデイとは

# 腎臓シックデイとは

- ❖ 発熱、下痢、嘔吐、発汗などの脱水になりやすい体調のこと



- ❖ 脱水状態になると、血圧が下がったり、腎臓への血のめぐりが悪くなり、急激に腎機能が悪化することがあります

この後は、シックデイに注意が必要な薬についてのお話です

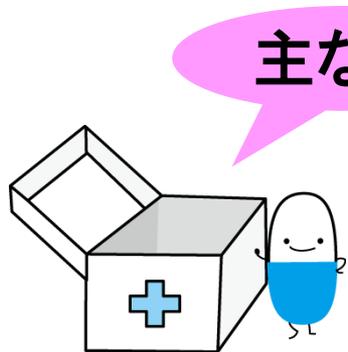
# 腎臓シックデイ時に対応が 推奨されている薬剤

- ✓ SGLT2阻害剤
- ✓ 降圧剤
- ✓ 利尿剤
- ✓ 解熱鎮痛剤(NSAIDs)
- ✓ 活性型ビタミンD製剤

# ✓ SGLT2阻害薬

尿への糖分排泄を促進する糖尿病治療の薬剤  
蛋白尿やアルブミン尿を減らす作用が認められ、  
腎臓の長期予後を改善する目的で用いられる

- ・利尿作用により、より脱水を引き起こしやすくなる
- ・尿中に糖分が排泄されすぎた場合、次のエネルギー源として、脂肪分解が活発となり、ケトアシドーシスを引き起こしやすくなる



主な薬

- ・フォシーガ錠<sup>®</sup>
- ・カナグル錠<sup>®</sup>
- ・ジャディアンス錠<sup>®</sup>

など

## ✓ 降圧剤

- ・水分や食事が十分とれない、下痢などの症状が重なると、体内の水分量や塩分量が低下し、普段よりも血圧が下がりすぎることがあります
- ・血圧低下により、腎臓への血流量も低下するリスクが高まります

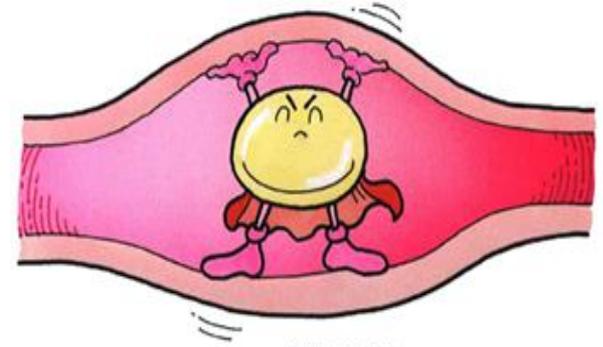
主治医と適切な血圧について普段から相談しておく

シックデイの間はこまめに血圧を測定し、下がりすぎたら減量や中止の指示に従いましょう

次に、降圧剤の種類についてお話します。

# 主な降圧剤①

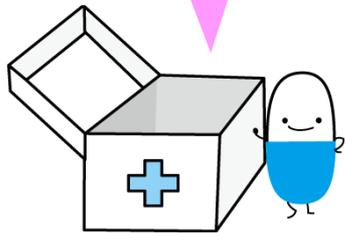
## ➤ カルシウム (Ca)拮抗薬



血管を拡げる

# 血管を拡げて血圧を下げる薬

## 主な薬



- ・アダラートCR錠® (後発:ニフェジピンCR錠)
- ・アテック錠® (後発:シルニジピン錠)
- ・ノルバスク錠® (後発:アムロジピン錠)
- ・カルブロック錠® (後発:アゼルニジピン錠)
- ・コニール錠® (後発:ベニジピン錠)

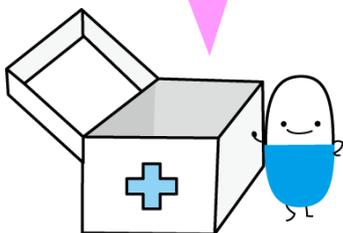
## 主な降圧剤②

- レニンアンギオテンシン系 (RA) 阻害剤
- ミネラルコルチコイド受容体阻害剤 (MRA)

# 血圧を上昇させるホルモン※ の作用を阻害する薬

ミネラルコルチコイド受容体阻害剤 (MRA)

主な薬



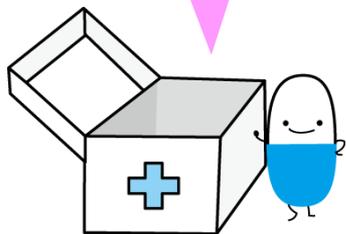
- ・アルダクトンA錠® (後発:スピロノラクトン錠)
- ・セララ錠® (後発:エプレノン錠)
- ・ミネブロOD錠®
- ・ケレンディア錠®

※ アンジオテンシンⅡや、アルドステロン を指します。

# レニンアンギオテンシン系(RA)阻害剤

- ・エースコール錠<sup>®</sup>（後発：テモカプリル錠）
- ・カプトリル錠<sup>®</sup>（後発：カプトプリル錠）
- ・コバシル錠<sup>®</sup>（後発：ペリンドプリル錠）
- ・セタプリル錠<sup>®</sup>（後発：アラセプリル錠）
- ・タナトリル錠<sup>®</sup>（後発：イミダプリル錠）
- ・レニベース錠<sup>®</sup>（後発：エナラプリル錠）
- ・ロンゲス錠<sup>®</sup>（後発：リシノプリル錠）
- ・アバプロ錠<sup>®</sup>（後発：イルベサルタン錠）
- ・アジルバ錠<sup>®</sup>（後発：アジルサルタン錠）
- ・オルメテック錠<sup>®</sup>（後発：オルメサルタン錠）
- ・ディオバン錠<sup>®</sup>（後発：バルサルタン錠）
- ・ニューロタン錠<sup>®</sup>（後発：ロサルタン錠）
- ・ブロプレス錠<sup>®</sup>（後発：カンデサルタン錠）
- ・ミカルディス錠<sup>®</sup>（後発：テルミサルタン錠）

主な薬



# 主な降圧剤③

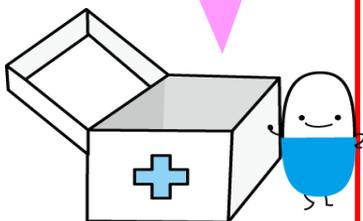


## ➤ 利尿剤

・水分や食事摂取不良、下痢の場合は、利尿剤によってさらに脱水が助長され、腎機能が悪化するリスクがあります

### 主な薬

- ・サムスカOD錠<sup>®</sup>（後発：トルバプタンOD錠）
- ・ダイアート錠<sup>®</sup>（後発：アゾセמיד錠）
- ・ナトリックス錠<sup>®</sup>
- ・フルイトラン錠<sup>®</sup>（後発：トリクロールメチアジド錠）
- ・ラシックス錠<sup>®</sup>（後発：フロセמיד錠）



# 主な降圧剤③



## ➤ 利尿剤

- 脱水の際は、体重が減少する  
→ 普段から主治医と目標体重を設定する
- こまめに体重を測定し、脱水を疑うときは利尿剤の内服を減量・中止する

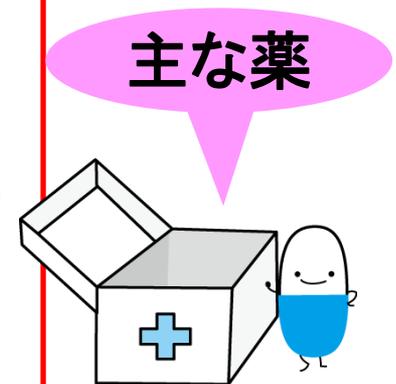
- 
- A small illustration of a white first aid kit with a blue cross on the front. Next to it is a small blue character with a smiling face and white shoes.
- ナトリックス錠®
  - フルイラン錠® (後発: トリクロルメチアジド錠)
  - ラシックス錠® (後発: フロセミド錠)

## ✓ 解熱鎮痛薬 (NSAIDs)

・輸入細動脈の拡張を阻害することで、腎臓への血流が低下し、急性腎障害のリスクを増大させる

- ・ボルタレン錠<sup>®</sup> (後発: ジクロフェナク錠)
- ・セレコックス錠<sup>®</sup> (後発: セレコキシブ錠)
- ・ロキソニン錠<sup>®</sup> (後発: ロキソプロフェン錠)
- ・ロルカム錠<sup>®</sup>

など



# 痛み止めや熱さましのお薬を連用



**腎機能悪化の危険！！**

発熱



腰痛



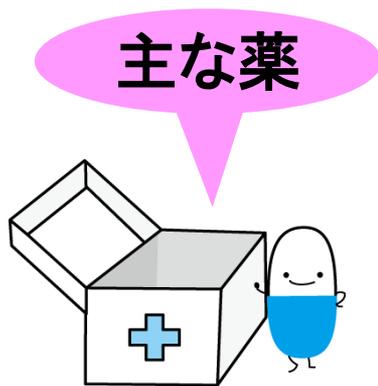
頭痛

解熱鎮痛剤には、非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) とアセトアミノフェン(カロナール®)がありますが、アセトアミノフェンには腎機能を悪化させる作用はありません。

## ✓ 活性型ビタミンD製剤

小腸でのカルシウム吸収を助け、骨がもろくなるのを防ぐ作用があります

・高Ca血症により脱水を増悪させ、急性腎障害のリスクを上昇させる



- ・アルファロール®  
（後発：アルファカルシドール）
- ・エディロール®  
（後発：エルデカルシトール）
- ・ロカルトロール®

など

# ！大原則！

体調不良で薬をどうするか**困ったら**、**主治医に相談**しましょう。

むやみに自己調節しすぎた場合、かえって腎機能が悪化する可能性があります。

体調が悪い際のお薬の対応について、事前に主治医と相談しておきましょう。

ご清聴ありがとうございました。

